

## 実施概要

当校の高等部就業技術科は、開校10周年を迎え、卒業時企業就労率平均95%を達成し、知的障害のある生徒全員の企業就労と、社会貢献できる人材に育てることを目指しています。

日頃の社会貢献活動としては、専門教科を通じて、福祉コースでは施設のベッドメイキングや手伝い、ビルクリーニングコースでは施設の清掃、食品コースでは施設のホールでのコーヒー提供などを行っています。

今回は、専門教科「福祉コース」における実習の一環として、実習先である施設の利用者を学校に招いて、もてなすとともに、ボッチャを共に楽しむ交流を行いました。

「永福ふれあいの家」は、定員53名の通所介護施設で、福祉コースの実習先です。学校へ年に一度招待してきましたが、今回初めてボッチャを通じたふれあい交流を行うことにしました。



ボッチャ、緑のボールを目標して真剣です

## 活動報告 実施日:11月21日(月)

生徒による社会貢献活動の趣旨に則り、また、福祉コースにおける日頃の学習を活かして、施設利用者の出迎えからご案内、見送りまで、生徒各々一人の施設利用者を担当し、もてなす取り組みを行いました。

永福カフェでのお茶とお菓子のもてなしにおいては、生徒が自分の担当する相手を気遣いながら、あたたかい会話が続くように、事前に会話の内容を考えておくようにしました。

「ボッチャ」では、施設利用者が取り組みやすいような内容にして、生徒と利用者のチーム対抗としました。勝ち負けについても生徒が解説し、ルールを理解しながら、楽しんでいただくようにしました。

**活動参加者内訳** 当校生徒…10人 担当教員…4人  
交流先利用者…4人 担当職員…3人

**交通手段** 当校と永福ふれあいの家の距離はおよそ1km  
招待のため施設の車で来訪

## 当日のスケジュール

- 13:00 学校・さわやか青少年センター・都教委、3者打合せ
- 13:30 施設利用者を生徒が出迎え。  
生徒一人が施設利用者一人を担当して、学校内を案内。
- 13:45 永福カフェ(食品実習室)にてお茶とお菓子でもてなす。  
生徒1人が利用者1人を担当。お話をして交流を深める。
- 14:15 パラリンピック競技「ボッチャ」について説明。  
ルール説明をして、「ボッチャ」を一緒に楽しむ。
- 14:45 お礼の挨拶 終了後、玄関まで生徒が担当する利用者をご案内 お見送り

## 活動のために準備したもの

- 進行用原稿 ● 「ボッチャ」紹介用掲示物 ● ルール表など
- 季節感のある装飾品 ● プレゼント用のメッセージカード

## 工夫したところ

- 校内案内では、生徒各自が利用者様に紹介したい場所や説明内容を決め、丁寧に説明できるようにした。
- 「ボッチャ」について、生徒も知らなかったので事前学習でゲームを体験し、理解してから、利用者様にとって分かりやすく楽しめるようなルールやコートの広さなどを相談して決めて、実施した。

## 実施にあたって注意したところ

- 利用者様の担当を決めることで、生徒が自覚をもって、安全に配慮しながら、利用者様を案内するようにした。
- 「ボッチャ」の介助ができるように事前に練習をした。
- 当日は、施設の職員の見守りや支援を受けながら実施した。

## 良かったと思うところ

- 初めて来校した利用者様を、安全に案内できた。
- 生徒が自主的に利用者様の支援等をする活動ができた。
- 利用者様に楽しんでいただけた。

## 今後に向けての学校からの抱負

今後も、高齢者施設での実習の際、生徒が、職員や利用者様と円滑なコミュニケーションをとれるように状況を見て話をすること、話し方を工夫すること、高齢者向けの話題を考えていくことを継続して学習していきたい。

## 活動の感想

## 生徒・教員の感想

## 生徒

- 司会でかまないように気がつけた。台本ばかり見ないで、利用者の方を見て話せてよかった。
- 安全を確認しながら歩行介助をしました。怪我なく過ごしていただけたので、僕の中では90点ぐらいかなあと思った。
- 自分たちが考えた「ボッチャ」を楽しんでもらえて、「楽しかった」と言われたことが、とても嬉しかった。

## 教員

利用者の方に「安全に楽しんでいただきたい」との思いが、準備を重ねていく中でどんどん強くなり、内容に対するアイデアや役割分担なども生徒が自発的に考えられるようになった。  
また、一人一人の得意な点を活かして、苦手な点を補い合いながら当日まで準備をすることができた。当日は、様々な場面で利用者の方に喜んでいただき、「利用者の方のために」との大きな目標が達成されて、成功体験となるととてもよい活動になったと思う。

## 施設の参加利用者・担当者の感想

## 利用者

- みなさんが楽しく勉強されていて立派だと思います。生徒さんは、しっかり勉強して、将来、社会の役に立っていると思います。
- すばらしい学校で、よくしていただいて、ありがとうございました。コーヒーやデザート、美味しかったです。
- ありがとうございます。きれいでびっくりしました。楽しかったです。
- すてきな1日でした。みなさんとのふれあいができて、おかげさまで、遊ばせていただきました。

## 施設長

喫茶にて美味しいコーヒーをご馳走になり、学生さんとの会話にも花が咲き、ご利用者の皆様もとても喜ばれていました。ボッチャでは高齢者が参加しやすいような工夫を考慮くださり、自然と「おいしい!」「やった!」等の声も聞かれました。共通の目的を持つことで、部屋全体が一体となり、とても有意義な交流の場となりました。

## ■ 実施までの経過 ※ (コ):コーディネーター

- 8月19日 当校と(コ)、当校にて第1回打合せ。  
当事業の社会貢献活動内容として、パラリンピック競技「ボッチャ」を施設利用者向けに楽しめるように企画し、実施を決定した。
- 9月2日 (コ)、福祉コースの授業見学、喫茶コースのコーヒーサービス見学。
- 9月12日 担当教員と(コ)、施設責任者を訪ね、(コ)より事業説明、ご快諾いただく。  
その後、担当教員、施設担当者、(コ)で連絡を重ね、当日に至る。

## 交流先



社会福祉法人サンフレンズ  
**永福ふれあいの家**

住 所:東京都杉並区永福2-14-20

## ■ 施設概要

- 通所介護事業(デイサービス)
- 予防通所介護事業 定員合計53名



私たちが学校をご案内します



コーヒーとお菓子で一息。会話も弾みます



## 実施概要

当校は、知的障害教育部門(高等部就業技術科)と肢体不自由教育部門(小学部・中学部・高等部普通科)がある学校で開校8年目を迎え、平成27年度にはキャリア教育優良校として文部科学大臣表彰を受賞しています。

社会貢献活動については、地域での花壇整備や自治会イベントへの参加等に取り組んできたところですが、やすらぎの家との交流活動は今回が初めてになります。

高等部就業技術科の部活動に伝統文化部があり、箏曲演奏を行っています。そこで今回は箏の演奏活動を通して高齢者とのふれあい交流活動を行うことになりました。また、以前から着付けボランティアとして伝統文化部に関わりのある施設職員の方に、園内の調整とともに今回も着付けでお手伝いいただきました。

利用者の方々が参加しやすいように、箏の弾き方を生徒が直接教えたり、東京音頭を取り入れるなどすることにしました。当日は箏演奏を主に、やすらぎの家の利用者の方に伝統文化を楽しんでいただきました。



手に手を添えて

## 活動報告

実施日:12月10日(土)

当日の司会進行は1年生とOBの生徒が行い、演奏に合わせて合唱及び踊りを利用者の参加も得て行いました。立って踊ることが難しい方でも、手拍子や体を揺らして楽しく参加してくださいました。

箏の体験は、楽器を移動させて利用者の近くで生徒が箏の弾き方を説明しながら交流を図りました。交流時間は20分程度超過しましたが、利用者からはとても好評で、今後も定期的に訪問してほしいとの声がかけていました。

活動参加者 当校 生徒…6人 引率教員…2人  
内訳 交流先 利用者…40人 担当職員…16人

交通手段 当校とやすらぎの家の距離はおよそ3km  
学校のバスで約10分

## 当日のスケジュール

- 13:30 学校・施設・さわやか青少年センター・都教委、4者打合せ
- 14:00 コンサート開始(学校:生徒司会「始めの言葉」)
- 14:05 箏演奏(荒城の月、通りゃんせ、夕焼け小焼、北国の春)
- 14:15 箏演奏(踊り:東京音頭、合唱:上を向いて歩こう、ああ人生に涙あり)
- 14:30 自己紹介
- 14:40 箏体験交流(利用者との琴体験)
- 14:50 利用者代表による「ちねり絵」贈呈
- 15:15 交流終了(学校:生徒司会「終わりの言葉」、学校・施設挨拶)

## 活動のために準備したもの

- お箏 17面(関連物一式) ●東京音頭の音源(テープ) ●着物一式

## 工夫したところ

- 生徒と利用者の方々が一体となって楽しめるコンサートにしました。(施設の利用者の方々が楽しめるよう、生徒世代は実際には知らない曲を演奏し、一緒に歌っていただきました)
- プログラムの中に踊り(東京音頭)を入れることで、静と動のバランスをとれるよう工夫しました。
- お箏体験を入れ、利用者や生徒がふれあえるようにしました。

## 実施にあたって注意したところ

- 利用者の方々の反応を見ながらのプログラムを進行。
- 生徒の言葉遣い、実施に向けた体調管理

## 良かったと思うところ

利用者の方々と生徒たちが一体となって楽しく取り組み、みんなが笑顔になれたこと。生徒たちは利用者の方々に喜んでもらうために練習し演奏しましたが、本番は利用者のみなさんの歌声や反応に背中を押され、練習時よりも上手に演奏できていました。

## 今後に向けての学校からの抱負

日頃から様々な活動を通して地域の方々と交流をしていますが、本事業をきっかけに新しい施設ともつながることができました。次年度から定期的に伝統文化部がコンサートをさせていただくとともに、利用者の方が当校ののんびりカフェにおいていただける予定です。

## 活動の感想

## 生徒・教員の感想

## 生徒

- 利用者さんにお箏を説明した後に「ありがとう」とたくさん言ってもらえて、幸せな気持ちになりました。楽しい時間はあっという間でした。
- 私は、MCを少しゆったりお箏をたくさんひいたりしました。「摘草」を一生懸命がんばりました。それでお箏体験では、お年寄りの人たちと楽しくなかよく過ごせたと、何よりお年寄りの人たちが笑顔になっていたの、私は、とてもうれしかったです。
- 箏があんまりできなくて、ご老人の方々に申し訳なかったけど、元気なおばあちゃん達(約2名)のおかげで少し勇気がでた。元気づけて、振袖で顔を隠すぐらい笑っちゃったけど。

## 教員

この度は「やすらぎの家慰問コンサート」をみなさまとともに行うことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。さらに、素敵なプレゼント(手作りの額入りの作品)まで頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。「やすらぎの家」の施設長様をはじめ、スタッフの方々、ご協力ありがとうございました。

## 施設の参加利用者・担当者の感想

## 利用者

- 朝早くから準備にとりかかり大変でした。今日の演奏は、大変感動しました。心から感謝申し上げます。
- 琴は、テレビでしか見たことがありません。本物は、今日初めてみました。とても感動し涙が出ました。
- 私は、子どもの時琴をやっていました。今日皆さんの演奏を聞いて、自分の子どもの時に聞いた音を思い出していました。ありがとうございました。

## 施設長

平成28年の夏祭りで感動的な琴の演奏を聞き、いつかは利用者の皆さんにも聞かせたいと思っていたところに、今回施設での社会貢献活動という機会に当施設を選んで頂き実現しました。当日は演奏だけでなく、琴の体験や踊りもあり利用者の皆さんが存分に楽しむ事が出来、終了時の利用者数名のお礼の言葉には感動と共に涙する方もおりました。これを機会に青峰学園ののんびりカフェにも伺い、交流を続けたいと思います。

## ■実施までの経過 ※ (コ):コーディネーター

- 8月19日 当校と(コ)、学校で第1回打合せ。就業技術科のコース間連携で、交流のある施設での移動カフェを検討した。
- 9月20日 当校と(コ)、学校で第2回打合せ。新規ではなく当校が様々実施している活動からということで、移動カフェではなく、伝統文化部の箏演奏を行うこととなった。交流先として以前から依頼のあった「やすらぎの家」に(コ)が連絡を取り、今回の趣旨を説明することとなった。
- 9月26日 (コ)、やすらぎの家に訪問。今回の交流事業を説明し快諾をいただく。
- 12月3日 当校と施設で社会貢献活動当日の最終打合せを行い、当日に至る。

## 交流先

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム  
やすらぎの家

住所:東京都青梅市吹上88番地

## ■施設概要

- 特別養護老人ホーム 入所定員100名
- 短期入所生活介護事業(ショートステイ) 3名



お箏の音色は美しいね



皆さんと踊りましょう